

株式会社 ポーラ・オルビスホールディングス
2021年12月期第1四半期 決算説明会 主な質疑応答（要約）

- Q1. 市場 国内化粧品市場について1Qは縮小傾向とのことだが、年間+4~5%回復の見方に変更はないか。**
⇒インバウンドを除いた国内市場の見方に変更はないが、現在発出されている緊急事態宣言の影響や、その後の市場回復トレンドには注意が必要。カテゴリー別では、スキンケアとメイク共に前年を上回るが、スキンケアの方が回復への貢献は高いと見ている。当社連結売上高に占めるスキンケアとメイクの構成比は、スキンケアが約60%、メイクが約10%、残りがそれ以外の化粧品や美容健康食品となる。
- Q2. 連結 4月の緊急事態宣言の影響は。**
⇒百貨店では化粧品フロアは営業している店舗もあり、ポーラの百貨店チャネルでは約3割のカウンターが休業している状況。ショッピングモール等に入っているポーラザビューティーもあるが影響はそれほど大きくないと考えている。緊急事態宣言の期間が当初予定の5月11日までであれば昨年と比べて大きな影響にはならないと想定している。
- Q3. 連結 1Qが想定を上回った主な理由は。**
⇒ポーラが主要因。海外売上高が好調に推移したことと、国内委託販売チャネルの減収幅が想定を下回ったことが理由。国内ECは想定通りの進捗となった。
- Q4. 連結 粗利益率の良化要因は。**
⇒原価率の低いポーラの売上構成比が高まったことと、B.A など高価格帯商品の構成比が高まったことによる。
- Q5. ポーラ 増益における販管費の影響は。**
⇒増益の主要因は増収と原価率の良化による粗利益の増加。販管費では販売手数料の減少影響が大きい。それ以外では、オンラインや新商品関連の広告宣伝費の増加や海外事業拡大に伴い管理費が増加している。
- Q6. ポーラ 増収幅に対して増益幅が大きいのは、海外売上高構成比が高まったことが要因か。**
⇒海外事業の営業利益率は国内事業と比較して高く20%を超えている。20%以上の水準を目処に売上拡大に向けた成長投資を継続する。また、国内事業においても委託販売チャネルの変動費減少や固定費効率化の影響で収益性は高まっている。構造変化により、収益性の高いビジネスモデルを目指す。
- Q7. ポーラ OMOの進捗について。**
⇒チャネル横断でのプラットフォームの完成は来期以降。現在はECサイトのアップデートを実施しオフラインへの導線づくりに力を入れている。

Q8. ポーラ 成長の持続性は。

⇒緊急事態宣言の影響など不確実性はあるが、今期は毎四半期増収を見込んでいる。主力チャネルである委託販売チャネルにおいても、エステ売上はほぼ前年並みとなり既存顧客中心に戻りつつある。利益面では、1Q 特有の委託販売チャネルの利益良化要因もあったが、2Q 以降も昨年と比べて収益構造良化は可能と考える。商品面では、7月にB.Aシリーズに新アイテムを追加するなど下期にも注目の商品は準備している。

Q9. ポーラ海外 地域別の伸び率は。(前年同期比)

⇒海外事業全体約 53 億円 (+63%)、中国約 13.5 億円 (+120%)、韓国約 27 億円 (+63%)、香港約 8.5 億円 (+45%)、台湾約 2.5 億円 (+106%)、タイ約 1 億円 (+34%)

Q10. ポーラ海外 前年同期比で大幅増収だが 2020 年 10-12 月と比較すると売上額はほぼ横ばい、季節性があるか。

⇒中国はコロナ影響で 2020 年上期は出店が進まず 3Q 以降に出店が集中していた。また、EC 商戦期など出荷タイミングの影響もある。

Q11. ポーラ海外 下期は前年ハードルが高いとも言えるが海南島への出店など当初計画を上回れそうか。

⇒海南島は複数店舗の出店自体は進展しており、あとは時期を調整中。当初計画を少しでも上回れるよう交渉を進める。

Q12. オルビス 1Q やや弱いように見えるが、当初想定していたブランドづくりは計画通りに進んでいるか。

⇒1Q の減収については、EC シフトを目的としてカタログ発行数を一部調整したことが既存顧客数減少に繋がったことが背景。アプリを中心としたコミュニケーションを強化し EC シフトが進んでいることや、商品単価の向上など、計画通り進捗している。

Q13. Jurlique 中国の伸び率が高く好調のようだが状況は。

⇒前年同期は代理店から切り替えた移行期であったことにコロナ影響が加わり苦戦をしていた時期ではあったが、ライブコマースなど EC での取り組みが功を奏し成長を牽引している。

Q14. トリコ 今期の業績影響イメージについて期首から変更はあるか。

⇒今期の営業利益影響は 10 億円強のマイナスを想定している。連結の通期見通しについては、ポーラ海外事業と国内 EC の好調と 4 月に発出された緊急事態宣言やトリコの連結取り込み影響を踏まえて、現時点では期首計画の達成に注力したい。

【注意事項】

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、ポーラ・オルビスホールディングス 2021 年 12 月期第 1 四半期決算説明会の質疑および、前後における問合せをもとに、当社の文責により趣旨を要約(順序不同・補足・補正)したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている業績見通しや将来予測などに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。